

防災の日本語

対象者の日本語レベル	入門から上級まで	時間	3 時間
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・災害のとき、避難できる。 ・避難や防災の準備ができる。 		
日本語補助者	学習者 3～4 名に 1 名の日本語補助者がつくると効果的		
準備物	白紙、マジック、色鉛筆、非常用持ち出し袋、防災の映像		
配布物	学習者が住む地区のハザードマップ、 SOS カード 、 振り返りシート		

講座の流れ

時間	学習者の活動	留意点
10 分	【イメージをつかむ】 <ul style="list-style-type: none"> ・講座のねらいと進め方を理解する。 ・自己紹介をする。 ・防災の映像を見る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習者、日本語補助者あわせて 4～5 名のグループを作る。 ・映像視聴後、内容について質問することを学習者に伝えておく。 <p><参考> 「多言語防災ビデオ2『地震！その時どうする？』」</p>
15 分	【体験・行動する】 <ul style="list-style-type: none"> ・映像の中で大切だったことは何か、グループで話し合って、発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「防災」という言葉を学習者が理解しているか、必ず確認する。
15 分	【ことば・表現を知る】 <ul style="list-style-type: none"> ・災害時に必要な言葉や表現を確認する。 ・避難所の場所の聞き方を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・SOS カード（県協会作成）を配布し、災害時に必要な言葉や表現を学習者が理解しているかを確認し、新しい言葉や表現を提示する。
60 分	【体験・行動する】 <ul style="list-style-type: none"> ・ハザードマップで最寄りの避難所を確認する。 ・自分の家から避難所までの経路図を描き、危ないと思われるところに印をつける。 ・経路図とハザードマップを見比べて、危険箇所を確認し地図に書き込む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・巡回し、グループでの作業が順調に進むようにアドバイスする。 ・学習者はグループで話し合いながら作業をする。 ・日本語補助者は、学習者が地図上で自宅を見つけられるよう補助する。日本語補助者は、学習者と同じ地区に住む人が望ましい。 ・グループ分けは、なるべく近くに住む人が同じグループになるように配慮する。
40 分	【体験・行動する】 <p>テーマ1「家族とバラバラに避難しなければならぬときどうするか」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで話し合い発表する。 ・グループの発表を聞いて、どうしてそのような意見になったのかを質問する。 <p>テーマ2「避難所に何を持って行くか」</p> <p>テーマ3「非常用持ち出し袋に何を入れるか」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマ1と同じように、それぞれのテーマで、話し合い、発表、質問をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語補助者は、答えを誘導したり、自ら話し合いをリードしたりしないように注意する。 ・最後に、非常用持ち出し袋を紹介する。
40 分	【学習を振り返る】 <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシートに、講座で覚えた言葉や表現を記入する。 ・振り返りシートに記入した表現を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシートには学習者が印象に残った言葉や表現、覚えて使いたい言葉や表現を書くよう指示する。 ・日本語補助者は学習者が学んだ言葉や表現を思い出せるようヒントを与え補助する。



地域で行われる防災訓練に参加してみよう！

町内会や市町村主催で行われる防災訓練に参加する活動と併せて実施することも効果的です。

福島県国際交流協会では、平成 29 年度と平成 30 年度の福島県総合防災訓練に参加し、その後に日本語講座を実施しました。



↑ 平成 30 年度福島県総合防災訓練



地元の人との協力が不可欠です。

ハザードマップ上で自宅や勤務先を確認し、そこから避難所までの経路上で危険な箇所がないか考えるという作業では、地元の人を持っている情報が不可欠です。町内会や消防団などに積極的に協力を依頼し、生きた情報が得られるよう工夫してください。

また、地元の人が地域に暮らす外国人と一緒に作業を行うという体験を通して、地元の人には簡単な日本語で外国人とコミュニケーションをとる機会となり、外国人が何に困っているかを知る機会ともなります。ぜひ、地元の皆さんに協力してもらってください。